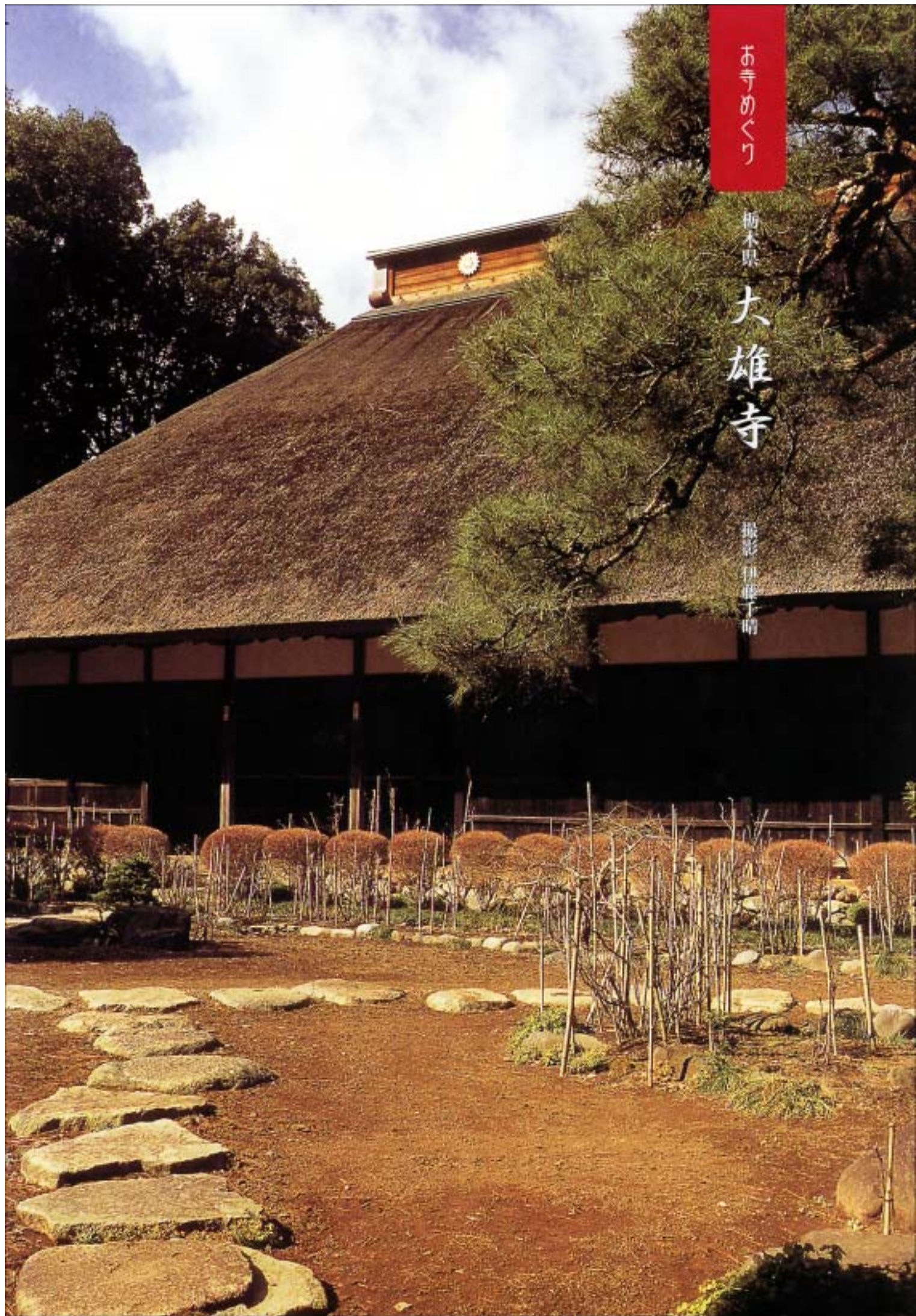


お寺めぐり

栃木県

大雄寺

撮影 伊藤千晴



いにしえのままに

杉木立に囲まれた石段を上りきって、総門そうもんの前に立った。一瞬、言葉を失う。というのは、目の前の総門はじめ、室町時代の様式を今に伝える総茅葺き屋根の本堂、禅堂ぜんどう、庫裡くり、回廊かいろう、鐘樓堂しょうろうだうのこの光景が、一瞬にして私を室町の時代に連れて行ってくれたからである。

歴史の重みに圧倒されるとい

うのではなく、むしろ茅の屋根が優しく迎えてくれて、なんだか心が休まる気もした。

黒羽山久遠院大雄寺は黒羽藩主大関氏の菩提寺で伽藍は六百年前に建てられ、黒羽城築城の際に現在の地に移築されてから四百年、一度も火災にあつていない。また栃木県の文化財指定を受けている。

しかし「国の重要文化財の指定に」と、去年の暮れに調査委員会が立ち上がった。どうやら一、二年後には指定を受けられそうだという。三十年前にもやはり国の指定を

という話があったが、その時は残念ながら次回に見送られたそう。それだけに「今回は期待が持てます」と、倉澤良裕住職は少しだけ笑顔でおっしゃった。

四百年間火災にあつてないおかげで大雄寺には、かなりの寺宝ほうが残っている。これまでは納戸に置かれたままになっていたが、二年前に集古館しゅうこかんを作り一般に公開している。

黒羽城郭図や大関家が使用した漆器や陶器、甲冑類かっちゅうるい、武器、大関氏の画像がざう、古文書などかなりの充実度である。半年に一度は入れ替えをし、ご住職が自ら、解説を付け、また、ボラン





ティアの人たちも
学芸員の代わりと
して迎えてくれる。

本堂の脇室には
十六羅漢の板絵が
飾られているが、
色がきれいに出て
いてとても二百年

前のものとは思えないほどであ
る。

さて更に、大雄寺自慢の宝物
がある。その一つが、栃木県で
一番大きいという「涅槃図」で
ある。それは高さ三メートル、
幅二・七メートルもあり、二月
のみ公開されている。

もう一つは、有名な「枕返し
の幽霊」の掛け軸である。この

絵は、足がなく八方睨みの老女
で江戸時代から残されている珍
しい掛け軸である。

この絵をかけてその前で寝る
と翌朝には反対向きになってし
まい、枕が返されているという
不思議で怖い幽霊の絵、このこ
とだが、実際にその掛け軸を拝
見してみても、怖さは感じられ
ない。それよりも、むき出した
八方睨みの目が気になり、正面
から右へ行って見たり、左に行
って見たりと確かめてみた。
すると確かにどこから見ても
もその目はこちらを睨んで
いる。ずっと見ていたら吸
いこまれてしまいそうであ
る。また、その場を離れて

も視線に追いかけているよ
うな不思議な感覚に捕らえられ
てしまった。

そうそうもう一つ自慢のもの
がある。五月に咲く牡丹の花で
ある。境内には三百株の牡丹が
植えられていて、見事な大きな
花を咲かせるという。そして、
その時期に合わせて「牡丹コン
サート」が開催される。今年で
八回目、琴や尺八、三味線の演
奏会で五月十三日の日曜日に、





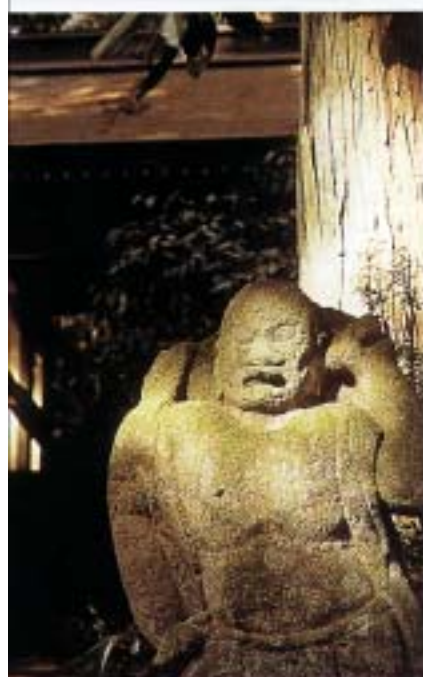
昼から二回公演される。募集人数は各百名。鑑賞者は本堂の中で、演奏者は本堂の廊下で演奏し、そのバックには牡丹の花が咲き乱れるという趣向を凝らした演出である。澄んだ空気
のなかでより一層心に響く音色を聴くことができるだろう。

大雄寺では坐禅会も人気で、第二と第四日曜日の朝七時半から行われている。悩みを抱えて坐るというより、最近では静けさや落ち着ける場所、心を癒す場所として坐禅を体験する人が多いという。

さて、「大雄寺」は「だ

いゆうじ」と読むのではなく「だいおうじ」と読む。これにはきちんとした意味があるという。ご住職が教えてくださった。「大雄世尊」といって、お釈迦さまをたたえている言葉。大いなる、偉大なる世の尊いお方、つまりこの言葉はお釈迦さまをさしているという。そのお釈迦さまに会いに、室町時代にタイムスリップしてみるのもいい。

(文・川内朋子)



大雄寺への行き方

- JR那須塩原駅または西那須野駅よりタクシーで20分
- 東北自動車道矢板ICより35分バス、乗用車など専用駐車場有り

〒324-0233

栃木県大田原市黒羽田町450

電話 0287-54-0332

ホームページ <http://www.daiouji.or.jp/>

